

厚木愛甲環境施設組合事業懇話会先進施設視察

平成 21 年度第 2 回懇話会は、厚木愛甲環境施設組合が
目指す環境に配慮した適正な広域ごみ処理施設整備に向け
て参考にするため、本組合で計画しているクローズドシス
テム型最終処分場（埋立地全体を屋根で覆った処分場）を
採用している、関東近郊では数少ない自治体の一つであり、
全国に先駆けて平成 10 年に供用開始した、長野県山形村の
「一般廃棄物最終処分場 サンクスBB」の視察を行いました。
当日は、概要説明の後、現地見学をしながら活発な質
疑応答がされました。

- 1 実施日 平成 21 年 11 月 18 日（水）
- 2 参加者 懇話会委員 6 人

サンクス BB 施設概要

第 1 期施設

埋立面積	800 m ²
埋立容量	2,660 m ³
埋立期間	平成 10～17 年度（約 8 年間）

第 2 期施設

埋立面積	692 m ²
埋立容量	3,460 m ³
埋立期間	平成 17～24 年度（約 8 年間）

※山形村人口	8,800 人 (H21.10 月現在)
〃 面積	24.94 k m ²



【主な質疑応答】

Q. クローズドシステム型を採用した理由は？

A. 村の中心部に近いところでの建設といった条件と、何より環境に配慮（風、臭気等）したため。

Q. 処分場用地の選定理由は？

A. ①周囲が畑で村民の目にいつでも触れることができ、管理の適正化に適している。②ごみに対する村民意識の向上が図られる。③北向き斜面のくぼ地で耕作に適さなかったこと。

Q. 最終処分場を広域で行う計画はなかったのか？

A. ごみ焼却施設（松本クリーンセンター、処理能力 450 t / 日）は松本市、波田町、山形村の 1 市 1 町 1 村により松本西部広域施設組合で運営。組合設置時、最終処分場はそれぞれの自治体の責任で確保しようという話であった。

Q. 跡地利用は？

A. 具体的には今のところ決まっていない。1 期、2 期で一体の施設という考え方であり、1 期施設のみの廃止はできない。

Q. 2 期施設の埋立状況は？

A. 焼却灰は現在再資源化（人口砂化）しているため、当初 24 年度で満杯と言われていたが、30 年度ぐらいまで延命化が図れるのではないかと考えている。

Q. ごみ焼却施設から持ってくる灰は山形村から発生するごみか？

A. 種分けはしていない。重量に対する割合で持ってくる。

Q. ビニール（ごみ袋）、ガラス（不燃残渣）等を埋立てしているが、随分早く一杯になってしまうように見受けられるが？

A. 家庭灰（こたつで使う練炭。家庭から収集。素性が分かっているので処理はしていない。）もある。ごみの分別がしっかりできているかどうかという問題もある。

Q. 山形村と松本市のごみの分別は統一されているか。

A. ごみ収集（可燃物、不燃物）は一緒。ごみ袋は有料（金額は市と村では違う）。ごみを減らしてもらおうという意識を持ってもらうため。3 年連続で値上げしたが、やはりごみは減った。